

令和八年度 入学式 式辞

式辞

桜花うららかに春の息吹が満ちるこの佳き日に、本日ここに、同窓会、PTAをはじめとする学校関係者のご臨席を賜り、長野県長野高等学校 令和八年度入学式を挙行できますことを、心より嬉しく思います。

ただいま入学を許可いたしました全日制二百八十一名、定時制十名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。本校は、明治十七年に設置された長野県中学校に由来し、明治三十二年に長野県立長野中学校として独立してから、百二十七年の歴史を刻んでおります。この学び舎から飛び立った先輩方は、日本のみならず世界の各界で活躍されています。皆さんは本日より、その伝統ある本校の生徒として、新たな一步を踏み出しました。教職員一同、皆さんを心から歓迎いたします。

また、今日の日を迎えるまで、深い愛情をもってお子様を育ててこられました保護者の皆様方、お子様の御入学を心よりお祝いを申し上げます。

本校は、県下有数の進学校として、長年にわたり学問を尊び、高い志と知性を備えた多くの卒業生を社会に送り出してまいりましたが、その伝統は、単なる進学実績によって築かれたものではありません。「和衷協同」「質実剛健」「至誠一貫」の校訓に表わされるように、自ら学び、深く考え、他者と誠実に関わろうとする姿勢を何より大切にしてきたことが、本校の礎です。新入生の皆さんがこれから過ごす高校生活は、知識や技能を身につける場であると同時に、どのように人と関わり、どのように集団と関わりながらの生きるのかを学ぶ時間でもあります。

本日私からは、皆さんに「リーダー」についての考えを話しておきたいと思います。多くの方は、リーダーとは、強い力で先頭に立ち、人を引っ張っていく存在だと考えがちです。しかし、強いリーダーの希求は、逆を返せば、個々の力が育っておらず、誰かに判断を

任せてしまいたいという弱さの表れです。これからの社会、そして本校が目指す学びの中で求められる姿は、必ずしも強いリーダーそれだけではありません。真のリーダーとは、自主性と責任を持った一人ひとりを前提として、その個々が同じ方向を見据え、その意識を一つにまとめて集団を動かすことができる者のことです。個々が自ら考え、自らの行動を尊重し、その個々の育った力を結びつけた時、集団は大きな力を発揮します。進学校という環境は、ともすれば競争が前面に出やすい場でもあります。ですが本校、私が目指したいのは、誰かだけが輝く集団ではなく、互いを認め合いながら、全体として高みを目指していく集団です。その中で、皆さん一人ひとりが、個々の力を高め、それぞれの立場で真のリーダーとなることを期待しています。

新入生の皆さん。どうか本校での高校生活を通して、自分の可能性を信じ、挑戦を恐れず、そして他者への敬意と寛容さを忘れない学び手であってください。皆さんが主体的に考え、行動し、その思いが結び合わさったとき、本校はさらに大きな力を持つ学校となるでしょう。

教職員一同、皆さんの日々の歩みを尊重し、全力で支えてまいります。この学校での出会いと学びが、皆さんの未来を力強く切り拓くものとなることを心から願い、式辞といたします。

令和八年四月四日

長野県長野高等学校

校長 佐野 浩一郎